

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320137

研究課題名(和文) シーア派ネットワークの展開と近世アジア世界の再検討

研究課題名(英文) Shi'ite Network and the Early Modern Asia

研究代表者

守川 知子 (Morikawa, Tomoko)

北海道大学・文学研究科・准教授

研究者番号：00431297

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：共同研究のメンバーが中心となって行った国際学会でのパネル・セッションやワークショップ、国内研究会での議論を通じて、近世期のアジア(西・中央・南・東南アジア)においては、シーア派ムスリムのみならず、ペルシア系、テュルク系、アルメニア教徒や「モール人」といった多様な人々が、宗派や民族、「国家」の枠組みを超えて広範囲に各地を移動・旅し、ネットワークを構築しながら交流していたことを、様々な言語による一次史料に基づき、多面的かつ実証的に分析・検討した。本研究の主たる成果は、『移動と交流の近世アジア史』としてまとめられ、2016年に北海道大学出版会より刊行された。

研究成果の概要(英文)：This project reached the conclusion that, in the early modern period, not only Europeans from East India Companies and Portuguese, but also local people such as Shi'ite Muslims, Armenians, Iranians, Hindus, Turks and "Moors" continuously and actively had immigrated and settled in other places in Asia, regardless of their religions and ethnicity or "nationality". Our nine papers were published by Hokkaido University Press in 2016, entitled <Travel, Migration and Interaction in Early Modern Asia>.

研究分野：西アジア史

キーワード：アジア史 近世 ネットワーク 交流 史料 旅行記 移動 移住

1. 研究開始当初の背景

アジア史研究は、研究の進展・深化に伴い、中国、インド、西アジアというように、対象地域が細分化されて久しい。また中東や西アジア研究においては、「オスマン帝国史」や「アッバース朝制度史」というように一王朝史や一国史に特化した歴史研究や、もしくは現代のイスラーム世界を過去に照射し、アラブ・イラン・トルコなど民族的区分を踏襲した研究が主流となっている。一方、近年隆盛をきわめる海域世界研究は、「海域アジア」という新たな「広域地域」を設定し、よりグローバルな視点から歴史研究を行っている。しかしながら、従来のインド洋海域世界研究では、10～13世紀のアラビア語史料や、19世紀以降のハドラーミーをはじめとするアラブ人の進出に大きく感化され、海域アジアで活躍するムスリムは、おしなべて「アラブ人」「スンナ派」と解されてきた。そのため、中世や近現代に比してさらに研究が手薄な16～18世紀の近世期については、ほぼイメージ論に終始し、当時の実態を反映したものとは言いがたい状況にある。また、近世期の海域アジア研究は、ポルトガルやイギリス、オランダなど、ヨーロッパ側の視点に立脚し、欧米諸語の史料を駆使した政治史や交易史が主眼となる傾向にある。

ゆえに、細分化されたアジアをグローバルに捉え、海域世界のみならず、陸域世界をも視野に入れることや、アジアの人々の歴史的営為を社会史的に、あるいは宗教史的観点から実証的に検討する必要性がある。

2. 研究の目的

本研究は、シーア派ムスリムの宗教ネットワークに焦点をあて、彼らの移動およびアジア各地でのコミュニティ形成について考察することで、16～18世紀の近世アジア世界の再検討を試みるものである。シーア派ムスリムは、近世期には西アジアを越えて、中央アジアや南アジア・東南アジアにまで拡大しているが、その展開の歴史的背景を解明し、移動・定住先の社会における彼らの宗教的・政治的・経済的役割について、多言語による一次史料およびフィールドワークから実証的に明らかにする。さらに、インド洋海域世界とユーラシアの陸域世界を結ぶ視点を加味することで、当時の世界が新たなネットワークを構築すると同時に、それぞれの地域社会のレヴェルにおいても、より多元的な社会へと変化しつつあったことを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、1.「シーア派諸派」の地理的広がりとその歴史的背景の解明、2.シーア派ムスリムの広範な存在を可能ならしめた政治・宗教・経済的要因のマクロ的分析、3.特定の都市を対象に、シーア派コミュニティと他宗派・他宗教コミュニティとの関係をミクロ的に解明、という3つの考察項目を設定

し、フィールドワークと文献資料の双方から多面的かつ実証的な分析を行う。

フィールド調査では、現地のコミュニティの核となる宗教施設を中心に、都市空間構造内におけるシーア派コミュニティのあり方を検討する。また、16世紀から19世紀の「近世アジア」の特徴は、多様な言語による一次(原典)史料が現存することが挙げられる。ペルシア語、テュルク系諸語(オスマン語・チャガタイ語)、アラビア語などの現地語に加えて、ポルトガル語、オランダ語、英語、フランス語の欧米諸語からなる一次史料を幅広く用いることにより、地域横断型のマルチ・アーカイブな実証研究を行う。

4. 研究成果

2013年6月には、マカオで開催された国際学会 International Convention of Asian Scholars (ICAS8)にて、“The Iranians in Ayutthaya during the Early Modern Period”と題するパネルを企画し(パネル代表者:島田竜登)、守川知子(本研究代表者)、島田竜登(分担者)、長島弘(連携研究者)の3名と、海外協力研究者の P. Kongchana 氏(タイ、Srinakharinwirot University)の4名がそれぞれ社会・経済・文化の各方面から研究成果を報告し、ディスカッションを行った。また同年11月には、守川および Kongchana 氏が中心となり、タイ・バンコクで“Muslim in Thai History”と題するシンポジウムを開催した。同シンポジウムでは、上記の本科研メンバー(守川・島田・長島)に加えて、タイ側の6名の研究者が、近世から近代を対象に、アユッタヤーからバンコク、マレー半島にかけてのイラン系シーア派ムスリムに関して報告を行った。

2014年には、北海道大学でシンポジウム「人の移動・移住とその記録 陸と海の近世アジア」を2日間にわたって開催し、守川知子(代表者)、島田竜登(分担者)、木村暁(分担者)、長島弘(連携研究者)のほか、間野英二氏(研究協力者、京都大学)、重松伸司氏(追手門大学)、三木聡氏(北海道大学)、真下裕之氏(神戸大学)、今松泰氏(京都大学)を招聘して、「近世」「アジア」「移動・移住・旅」「史料」をキーワードに講演および研究報告を行った。いずれの報告も、15世紀末から19世紀にかけての近世アジア世界を対象とした、多様な言語の一次史料に基づく実証的な研究であり、シーア派ムスリムに限らず、当該時期には「国境」や言語地域を越えてダイナミックに移動する様々な人々(シーア派、アルメニア人、モール人、士大夫、王族、海軍提督など)の姿が浮かび上がった。彼らは、政治状況や文化的背景の相違があろうとも、海や陸の「道」を通して頻りに往来し、ユーラシアの陸域世界とインド洋の海域世界を結ぶ広範なネットワークを形成していたのである。

本シンポジウムの成果は、最終年度の2015年度に、『移動と交流の近世アジア史』(守川

知子編著、北海道大学出版会、2016年、303頁)として刊行した。同書は、シンポジウム報告者9名全員の論考を所収する。下記の代表者・分担者・連携研究者(計4名)以外の論考については以下のとおりである:真下裕之「近世南アジアにおける人的移動の記録と記憶」、今松泰「オスマン海軍提督のアラビア海からの帰還」、間野英二「ミールザー・ハイダルの生涯と彼のバダフシャーへの旅」、三木聰「明清交替期の地方士大夫と旅」、重松伸司「17-18世紀初頭のインドにおけるアルメニア商人とイギリス東インド会社」。

個人の生涯にわたる旅、集団の移動・移住、コミュニティ形成と発展を、マルチ・アーカイヴな手法に基づき、主にアジアの人々の視点から描き出す本論文集は、アジアをグローバルに捉える新たな「近世アジア史像」を提示するものであり、本書の刊行によって、「地域横断型の広域地域研究」を目指した本共同研究は十分な成果をあげることができたと見えよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

Tomoko Morikawa, “Les Lieux de Commémoration et les funérailles Qājār: «Le Transport des Corps» dans la société chiite”, Anna Caiozzo (ed.) *Mythes, rites et émotions: Les funérailles le long de la Route de la soie*, Paris: Honoré Champion, 2016, pp. 249-264. (査読なし)

守川知子「インド洋海域世界のイラン人 シyamにわたった人びとを中心に」守川知子編『移動と交流の近世アジア史』北海道大学出版会、2016年、3-31頁。(査読なし)

守川知子「帝国へのまなざし イラン国王、岩倉使節団、シyam国王とロシア・イギリス」宇山智彦編『ユーラシア近代帝国と現代世界』ミネルヴァ書房、2016年、69-96頁。(査読なし)

島田竜登「近世バタヴィアのモール人」守川知子編『移動と交流の近世アジア史』北海道大学出版会、2016年、249-274頁。(査読なし)

木村暁「マンギト朝政権の対シyam派生鮮とメルヴ住民の強制移住」守川知子編『移動と交流の近世アジア史』北海道大学出版会、2016年、59-85頁。(査読なし)

長島弘「1730年前後作製のスーラト絵図を読み解く」守川知子編『移動と交流の近世アジア史』北海道大学出版会、2016年、185-214頁。(査読なし)

Tomoko Morikawa, “Pilgrims beyond the Border: Immigration at Khanaqin and Its Procedures in the Nineteenth Century”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, 72, 2015, pp. 99-124. (査読あり)

守川知子「地中海を旅した二人の改宗者 イラン人カトリック信徒とアルメニア人シyam派ムスリム」長谷部史彦編『地中海世界の旅人 移動と記述の中近世史』慶應義塾大学言語文化研究所、2014年、257-284頁。(査読なし)

島田竜登「17・18世紀におけるアユッタヤ朝のアジア域内貿易とオランダ東インド会社 『スレイマーンの船』との関連で」『史朋』47, 2014年、1-16頁。(査読あり)

島田竜登「梅棹忠夫『文明の生態史観』とグローバル・ヒストリー 歴史叙述の新たなパラダイムを求めて」『比較文明』30, 2014年、99-113頁。(査読あり)

木村暁「ウズベキスタン伝存の西徳二郎書簡をめくって」『アジア・アフリカ言語文化研究』88, 2014年、5-41頁。(査読あり)

守川知子「サファヴィー朝の対シyam使節とインド洋 『スレイマーンの船』の世界」『史朋』46, 2013年、1-34頁。(査読あり)

島田竜登「海域アジアにおける日本銅とオランダ東インド会社」『アジア遊学』166, 査読なし, 2013年、48-58頁。(査読なし)

島田竜登「近世ジャワ砂糖生産の世界史的位相」秋田茂編『アジアからみたグローバルヒストリー 「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興へ」』ミネルヴァ書房、2013年、148-171頁。(査読なし)

Ryuto Shimada, “The Long-term Pattern of Maritime Trade in Java from the Late Eighteenth Century to the Mid-Nineteenth Century”, *Southeast Asian Studies*, 2/3, 2013, pp. 475-497. (査読あり)

Ryuto Shimada, “Economic Links with Ayutthaya: Changes in Networks between Japan, China, and Siam in the Early Modern Period”, *Itinerario: International Journal on the History of European Expansion and Global Interaction*, 3/3, 2013, pp. 92-104. (査読あり)

[学会発表](計30件)

守川知子「歴史空間としての西南アジアの再構築を目指して」第277回北海道大学東洋史談話会、北海道大学(札幌市)、2016年2月10日。

Tomoko Morikawa, “The Safavid Embassy and the Siamese Royal Court”, Eighth European Conference of Iranian Studies, The State Hermitage Museum (St. Petersburg), Russia, 17 Sep 2015.

Ryuto Shimada, “South Asian Settlers at Batavia in the Seventeenth and Eighteenth Centuries”, XVIIth World Economic History Congress, Kyoto International Conference Center (Kyoto), Japan, 6 Aug 2015.

木村暁「18世紀ブハラ年代記『ハンへの贈り物』について 史料論と王権論からの略考」平成27年度九州史学会大会、九州大学(福岡市)、2015年12月13日。

Tomoko Morikawa, “‘Imam Veneration’ and

Pilgrimage to their Tombs (from Iran to Ottoman Iraq)”, International Workshop on Shiite Saint Veneration in Comparative Studies, Isfahan University (Isfahan), Iran, 11 May 2014.

Tomoko Morikawa, “Bisotun and Iranian Historiography of the Qajar Period”, Fourteenth IQSA (International Qajar Studies Association) Conference: Literature and Writing in Qajar Iran, Otto-Friedrich University Bamberg (Bamberg), Germany, May 31, 2014.

守川知子「シヤムにわたったイラン人 その出自を中心に」シンポジウム「人の移動・移住とその記録：陸と海の近世アジア」北海道大学（札幌市），2014年9月21日。

守川知子「17世紀後半のサファヴィー朝対シヤム使節団をめぐる」東洋史研究会大会，京都大学（京都市），2014年11月3日。

島田竜登「長崎出島のアジア人「奴隷」とイスラーム」比較文明学会第32回大会，西南学院大学（福岡市），2014年10月11日。

島田竜登「近世バタヴィアのモール人について」シンポジウム「人の移動・移住とその記録：陸と海の近世アジア」北海道大学（札幌市），2014年9月21日。

島田竜登「バタヴィアとアジア船 アジア域内貿易の一側面」東洋史研究会大会，京都大学（京都市），2014年11月3日。

木村暁「ブハラ王権下のシーア派禁制 マンギト朝の対イラン聖戦と徙民政務をめぐる」シンポジウム「人の移動・移住とその記録：陸と海の近世アジア」北海道大学（札幌市），2014年9月21日。

長島弘「近世インドの国際都市スーラトの諸コミュニティ 当時の地図を手がかりに」シンポジウム「人の移動・移住とその記録：陸と海の近世アジア」北海道大学（札幌市），2014年9月21日。

守川知子「もうひとつの聖地巡礼 シーア派の墓参詣」NIHU プログラム・イスラーム地域研究，共同利用・共同研究拠点イスラーム地域研究講演会，早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区），2013年2月2日。

守川知子「サファヴィー朝の対シヤム使節とインド洋」第262回北大東洋史談話会，北海道大学，2013年2月11日。

Tomoko Morikawa, “Memory Places and Funerals in the Shi’ite Society”, Mythes, rites et emotions: les funérailles le long de la route de la soie (Myths, Rites and Funerals: Dead along the Silk Road), Université Paris 7 Denis Diderot, Amphithéâtre Buffon (Paris), France, 8 Mar 2013.

Tomoko Morikawa, “Siamese Court Culture through the Eyes of an Iranian Shi’ite Muslim: An Analysis on *The Ship of Sulayman (Safina-yi Sulaymani)*”, Panel Session: “The Iranians in Ayutthaya during the Early Modern Period”, The Eighth International Convention of Asia Scholars, The Venetian Macau Resort Hotel (Macao), China, 24 Jun 2013.

Tomoko Morikawa, “Siamese Court Culture through the Eyes of a Persian Shi’ite Muslim in the Seventeenth Century”, International Conference: Maritime East Asia in the Light of History, 16th-18th Centuries: Sources, Archives, Researches, “Orientale” University of Naples (Naples), Italy, 2013/10/02.

守川知子「シーア派の聖地巡礼 イラク・イランの聖墓参詣を中心に」公開シンポジウム（四国遍路と世界の巡礼／日本中東学会第19回公開講演会），愛媛大学南加記念ホール（松山市），2013年10月27日。

Tomoko Morikawa, “Siamese Court Culture through the Eyes of an Iranian Shi’ite Muslim”, Symposium: Muslim in Thai History, Tonson Mosque (Bangkok), Thailand, 23 Nov 2013.

Tomoko Morikawa, “A Shi’ite Armenian in the Late Seventeenth Century”, Mapping Safavid Iran, ILCAA (Fuchu), Japan, 1 Dec 2013.

Ryuto Shimada, “Iranian Settlers in Ayutthaya and the Dutch East India Company”, Panel Session: “The Iranians in Ayutthaya during the Early Modern Period”, The Eighth International Convention of Asia Scholars, The Venetian Macau Resort Hotel (Macao), China, 24 Jun 2013.

Ryuto Shimada, “The VOC Trade of Copper from Japan”, Boekhouder-generaal Batavia: ontsluiting van de bronnen van het goederenvervoer van de VOC in de achttiende eeuw, The Huygens Institute for the History of the Netherlands (Den Haag), The Netherlands, 6 Sep 2013.

Ryuto Shimada, “Hirado and Beyond: British Trade with Japan in the Seventeenth Century”, International Conference: Japan and Britain, 1613: Parallels and Exchanges, The School of Oriental and African Studies, University of London (London), The United Kingdom, 20 Sep 2013.

Ryuto Shimada, “Batavia as World Trade Centre?: A Key Trading Port in Indonesian, Asian and Global Perspectives, 1619-1799”, International Conference: Maritime East Asia in the Light of History, 16th-18th Centuries: Sources, Archives, Researches, “Orientale” University of Naples (Naples), Italy, 2013/10/02.

島田竜登「17世紀末アユッタヤー朝の国際貿易 イラン使節来朝の経済的背景」北海道大学東洋史談話会，北海道大学（札幌市），2013年10月18日。

Ryuto Shimada, “Global Trade in Ayutthaya during the Early Modern Period”, Symposium: Muslim in Thai History, Tonson Mosque (Bangkok), Thailand, 23 Nov 2013.

Hiromu Nagashima, “Trade Relations of Muslim Merchants of Ayutthaya with Japan in the Seventeenth Century”, Panel Session: “The Iranians in Ayutthaya during the Early Modern Period”, The Eighth International Convention of

Asia Scholars, The Venetian Macao Resort Hotel (Macao), China, 24 Jun 2013.

29 Hiromu Nagashima, “Trade Relations of Muslim Merchants of Ayutthaya with Japan in the Seventeenth Century”, Symposium: Muslim in Thai History, Tonson Mosque (Bangkok), Thailand, 23 Nov 2013.

30 守川知子「シーア派政権サファヴィー朝と改宗問題 あるアルメニア人シーア派ムスリムの軌跡」パネル・セッション「サファヴィー朝の 200 年：変化とダイナミズム」, 日本オリエント学会第 54 回大会, 東海大学湘南キャンパス(平塚市), 2012 年 11 月 25 日.

〔図書〕(計 1 件)

守川知子編『移動と交流の近世アジア史』北海道大学出版会, 2016 年, 303 頁.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

守川 知子 (MORIKAWA, Tomoko)
北海道大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：00431297

(2) 研究分担者

島田 竜登 (SHIMADA, Ryuto)
東京大学・大学院人文社会系・准教授
研究者番号：80435106

木村 暁 (KIMURA, Satoru)
筑波大学・人文社会科学研究科・研究員
研究者番号：00625113

(3) 連携研究者

長島 弘 (NAGASHIMA, Hiromu)

長崎県立大学・名誉教授
研究者番号：10145964

(4) 研究協力者

間野 英二 (MANO, Eiji)